

単元名 1 広がる学びへ ―枕草子

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 現代語訳や語注を手掛かりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えることができる。
- (2) 四季に対する作者の考えと自分の考えとを比較し、感じたことをまとめることができる。
- 生 活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけることができる。
- (3) 進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとする。

標準的な展開例

11210104_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「枕草子」を朗読し、古文を読み慣れる。</p> <p>○ 平安時代の宮廷の様子、清少納言について知る。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★「枕草子」を朗読し、古文に読み慣れよう。</p> <p>○ 歴史的仮名遣いや古語に印を付けながら、p. 28～p. 29の範読を聞く。</p> <p>○ 朗読の練習をする。</p> <p>○ 作者がそれぞれの季節にふさわしい風物として挙げているものを確認する。</p> <p>2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。</p> <p>○ 「枕草子」を音読する。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★清少納言のものの見方や感じ方を読み取ろう。</p> <p>○ 冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのか整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。</p> <p>○ p. 30の章段を読み、作者が「何」の「どんな様子」を「どう感じている」のかについて整理する。</p> <p>3 自分流「枕草子」を書き、学習を振り返る。</p> <p>○ 「枕草子」を音読する。</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>★自分流「枕草子」を書こう。</p> <p>○ 「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。</p> <p>○ 書き上げたものを読み直し、誤字脱字・文のねじれ等の推敲をする。</p> <p>○ 感想を交流する。互いに書き上げた自分流「枕草子」を読み合い、相互評価をする。</p> <p>○ 学習を振り返る。</p>	<p>・ 隣同士、グループ、学級というように、いろいろな方法で読み合い、古文の調子に慣れさせる。</p> <p>・ 中宮定子との関わりや、紫式部との関係について簡単に説明する。</p> <p>【評】 古文に興味をもち、そのリズムを楽しみながら音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・ 個人、隣同士、グループ等、形態を変えてすらすら読めるように練習させる。</p> <p>・ 季節感あふれる言葉の使い方や、清少納言独自の美意識に触れさせたい。</p> <p>・ 適宜現代語訳を参考にしながら進めたい。</p> <p>・ 事前に自分の好む四季の趣を考えさせておくといよい。</p> <p>【評】 原文の表現から、清少納言がよいとする情景を読み取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「山ぎは」と「山の端」の違いや「をかし」と「あはれなり」などの古典独特の言葉について、解説を加える。</p> <p>・ コラム「枕草子」(p. 31)を参考にしながら枕草子の特徴を捉え、「徒然草」の学習と関連させてもよい。</p> <p>・ それぞれの季節で自分が好きな時間帯や食べ物、行事などを取り上げさせる。</p> <p>【評】 自分流の枕草子を書く活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・ 「春は…。夏は…。」の書き出しを基本とさせる。</p> <p>・ よかった点を付箋に書いて相手に渡し、もらった付箋はノートに貼って保管させる。</p> <p>・ グループで、互いに書き上げた自分流「枕草子」を読み合い、相互評価をする。</p> <p>・ 作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由と共に挙げさせる。</p>

【 備 考 】

第1学年までに学習してきたことを振り返り、第2学年の学習に新たな気持ちで臨むことができるような作品が取り上げられている。ここでは、親しみやすい詩や物語、古典などの文章を読んだり、職業に関する情報を集めたりして、これまでに学習したことを振り返り、今後の学習の見通しをもたせたい。

言語活動としては、詩や物語、古典などの文章に触れることにより、言葉の豊かさに気付かせ、その場に合った表現ができるようにしていきたい。このことは、国語学習だけにとどまらず、日常生活の中でもその場に合った豊かな表現活動ができる礎になるとよい。

また、「アイスプラネット」では、ぐうちゃんの僕に対する思いはこの年代の子どもたちにとっても望まれることであり、自分のこれまでの生き方・考え方を振り返らせるよい機会となることだろう。これは、道徳のB－(9) 相互理解・寛容にあたる。

「季節のしおり 春・夏・秋・冬」を参考にさせるとよい。